

## 一般質問



もっと詳しく!!

もっと詳しく医師不足、三洋電機跡地の商業施設の進出...etc聞かせてちょうだい。

6月12日、13日の本会議では、延べ15人の議員が質疑・一般質問を行い、議案や市政全般にわたり活発な質問が行われました。

## 加西病院の医師不足と産婦人科の休診

**Q** 勤務医不足になった原因と、産婦人科の

休診に至った経緯を聞く。また医師の退職は、待遇も影響しているのではないかとこの見方があるが、国の医療制度改革と医師不足を含めてどうとらえているのか。

産婦人科の問題は、母親の声を参考に産科病棟を約2,000万円かけて改装し患者増を確認した矢先だけに残念。これまでかかっていた患者さんにはその後どう対応されているのか。

**A** 加西病院の勤務医不足の原因は、全国レ

ベルでの勤務医不足の影響です。本院のスタッフの医師は、いま正規の職員で現在13名で、北播の他の公的病院もほぼ同じです。個別的な事情として、神戸から通勤する交通の便の問題があると考えます。

産婦人科が休診に至った経緯は、神戸大学の産婦人科教室から本院勤務の2名の婦人

科医師を他の病院に異動させ、それに伴う補充は当面医師が確保できないという申し入れが2月にありました。この背景には、神戸大学産婦人科医局の医師不足と、政府の産婦人科医療並びに小児科医療の集約化の方針があります。この方針を受けた県と大学の対応が影響したことが一番の原因です。兵庫県では、10年間で3割産婦人科が消失し、残った7割の病院でも婦人科医療のみで出産を伴わない施設が急増しています。産科医たちが非常に減っているという現状で、加西病院の処遇が悪かったということが直接の原因であったとは考えていません。

産婦人科病棟の閉鎖後の患者さんへの対応は、5月31日に東3病棟を閉鎖し、産婦人科に入院している患者さんは、退院もしくは転院となり、その病棟に入院していたその他の内科の患者さんは他の病棟に移っていただきました。一方、外来患者さんについては5月中旬以降に出生される方とか、悪性腫瘍で外来通院中

であった方は、できる限り患者さんの希望に沿うような形で紹介状を用意して転院という方法をとらせてもらいました。

神戸大学との関連を密にして医師派遣に答えていただく取り組みをやっていきます。当面は、勤務医が不足する状況で、医師確保がすぐに行えないのではと厳しい見方をしています。しかし、医師の労働環境の改善、リスクの軽減、処遇の改善とかを行えば、将来的に医師確保の上で有利になると考えます。可能な限りの手段を使って産婦人科、婦人科医療の再開を目指したいと考えています。



加西市連合婦人会(板井ちさ代会長)から産婦人科・婦人科の存続を求める要望書が2万人余りの署名を添えて提出されました。